

はじめのことは

福島 雅典

どんなよい種（シーズ）であろうが，荒地では育たない．雑草をとって，畑を耕し，水をやり，それでようやく種を蒔いて育てることができる．子供でも判る道理である．

今は昔，ちっとも大学からは基礎研究の成果が患者さんのもに届かない，そんな事があった．研究費が十分ではないのではないか，そんな意見もあった．でも，育つべき環境を与えない限り種は芽を出すことはないし，育つわけもない．苗は雨の日も風の日もこまめに世話をしないとうまく実をつけるまで育てられない．水をやりすぎれば腐ってしまう．油断をしているとすぐ雑草が生える．そして，果実は食べられるものでないといけなし，しかるべき店で売られなければ消費者の手元に届くことはない．アカデミアにおいてシーズを育てイノベーション創出するのは，お百姓さんが畑を耕して，そこに種を蒔いて水をやり，精魂込めて育て，そして長い年月の後に漸く実りを収穫してしかるべき店に出荷するのと変わらない．

平成19年に開始された文部科学省橋渡し研究支援推進プログラムにおいて，アカデミアにシーズ開発の基盤を形成し，シーズ開発が円滑に行われるように，PD/PO，文部科学省と綿密な連携のもとに私たちはサポート機関としてPDCAマネジメントの実務を行ってきたが，その心は今述べたお百姓さんの仕事の比喻そのままである．拠点形成は種を蒔くための畑づくりだ．千里の道も一歩から．そして，各シーズの開発，治験開始までの道のりも桃栗三年柿八年，という具合だ．何も難しいことではない．武士訓に詠む．何事もならぬといふはなきものをならぬといふは為さぬなりけり．

今ここに，日本医療研究開発機構がどのようにプロジェクトマネジメントすればよいか，PDCAマネジメントの参考のために，私たちの行ってきた事柄をそのまままとめたのが本編である．加えて，臨床研究の信頼性保証のための基本について，またこれからより多くのよい実りが収穫できるように，そのために何をしなければならないか，そのことについての論，「持続的イノベーション創出に向けて ― 基礎研究の拡充・強化のために」も加えた．本編が諸氏の参考になれば幸いである．